

核戦争防止・核兵器廃絶を求める福岡県医師・歯科医師の会

ニュースレターNO.83

発行：2014年3月20日 * 反核医師の会をもう一回り大きくするため、ご友人などをおさそいください

(発行責任者) 岡本茂樹

(連絡先) 福岡県保険医協会内 電話：092-451-9025

福岡市博多区博多駅南 1-2-3

巻頭言

【世話人代表 岡本茂樹】

平成のファシスト

2月23日、九条の会福岡県連絡会主催の講演会に出かけました。テーマは「国家安全保障基本法案を斬る～戦争国家への道急ぐ安倍政権を問う～」、講師は纈纈厚山口大学副学長でした。講演を聞き、時代の行く末に暗澹たる思いで天神の街へ出ると、日曜の午後の天神の日常の賑わいに、昭和の10年代もこのような日常であったのか、と目が眩む気持ちでした。



講師の纈纈厚氏

従属・日本自立という矛盾した路線、つまり政策としての対米従属と本音としての対米自立を使い分け、平和憲法を廃して自主憲法（明治憲法への回帰）を目指したのが岸信介でした。安倍晋三の政治手法は祖父岸信介のそののコピーです。

そのファシスト安倍晋三の目指す集团的自衛権行使の意味するものは「日中戦争」です。米中戦争を回避したい米国の戦略は、米国の代理としての日本が行う第2「日中戦争」で日中両国が疲弊することです。これは米英両国の戦費貸し付けにより遂行された日露戦争が、中国での権益を闘わずして得たい米英の代理としての日露の消耗戦だったことを髣髴とさせるという纈纈氏の指摘は頷けるものでした。

纈纈氏は、特定秘密保護法は（情報統制・自己検閲・日米秘密同盟）として括れる、国家安全保障会議（日本版NSC）は国会を形骸化し現代版「大本営」の復活であり、「国家安全保障基本

法案」は現代版「国家総動員法」であると述べましたが、詳細は割愛します。

最後に、安倍晋三の「積極的平和主義」の英訳が「Positive peace」ではなく、「Proactive Contributor to peace」であり、Proactive は軍事用語として用いる場合は「先制攻撃」を意味し、自国の「平和」のためには敵対する相手への先制攻撃を辞さないとする意思の表明である、とい指摘には空恐ろしいものを感じました。

安倍晋三ファシスト政権は、軍需産業を育成し、原発産業の復活・海外輸出を推し進め、時代閉塞の中でもがく若者は、都知事選で軍国主義者田母神氏に少なくない投票をするという切迫した状況です。額額氏は、一日も早くこの状況を反転するために、「九条を守る」に止まらない「市民戦線」的な安倍ファシスト政権を打倒する闘いが必要であると言いかけ講演は終わりました。

額額先生は、11月の福岡での「全国反核医師のつどい」の講師にも予定されています。

情 勢

【世話人 北川喜久雄】

情勢についてわかりやすく述べられているので、石川県協会の原和人氏の文（2/23）「核兵器の人道的影響に関する会議と日本国政府の立場」を紹介します。

2月13日～14日にメキシコのナジャリットにて、「核兵器の人道的影響に関する第2回国際会議」が、メキシコ政府の主催によって行われた。この会議は、昨年3月にノルウェー政府がオスロで開催した第1回会議のフォローアップの会議であった。



**SECOND CONFERENCE ON THE
HUMANITARIAN IMPACT OF
NUCLEAR WEAPONS**
NAYARIT, MEXICO 13-14 FEBRUARY, 2014

オスロ会議では、核兵器が使用された場合の被害の深刻さが論議され、その議長総括では、「核爆発による緊急事態に十分な対応や救援を行うのは、どんな国や国際機関でも不可能だ」とのべ、核兵器の非人道性について強調した。

今回の第2回の会議には、146ヶ国の代表团と国連、市民団体などが参加した。

今回の会議の議長総括は、

- ・ 核兵器の爆発は各国の国境を超えて影響を及ぼす。
- ・ 核爆発によって直接的な死と破壊だけではなく、社会的・経済的な発展を阻害する。
- ・ 経済・通商・通信・医療・学校などの社会的インフラに重大な損害を与える。
- ・ 放射能被爆は、人体に対して短期的および長期的な否定的な影響を及ぼす。
- ・ 核兵器使用のリスクは、サイバー攻撃やテロ攻撃などによって高まっている。
- ・ より多くの国が核兵器を保有していることにより、意図的なあるいは偶発的な核兵器の使用のリスクが高まっている。
- ・ 核兵器が爆発した時に、短期的・長期的な人道上的支援や保護に取り組む能力は、いかなる国も国際機関も持ちえていない。

と述べ、核兵器は非人道的な兵器であるということを改めて確認した上で、

この間の、包括的核実験禁止条約の発効や、2015年のNPT再検討会議、2013年国連総会ハイレベル会議など、核兵器の廃絶を求めるあらゆる国際会議と連動し、また、市民社会と共同して運動をすすめるように提案している。

そして、次回のオーストリアでの会議を熱烈に歓迎し、「過去において、さまざまな兵器が法的に禁止されたのちに廃絶されたことを考慮に入れる必要がある」として、法的拘束力のある「文書」（条約）の必要性について言及した。

核兵器の人道的な影響を討議する会議は、当初から「核兵器は非人道的兵器であり、国際人道法に違反し、従って、核兵器の使用は国際法違反である」という論理性を持っていた。日本国政府は、その被爆体験から、「核兵器は非人道的な兵器である」ということは認めつつも、核兵器が存在する限りその「抑止力」が必要

であり、核兵器の廃絶は、ステップバイステップに行われるべきだという立場をとってきた。

これまで、日本国政府は、「核兵器は非人道的兵器である」という立場から、これまでの一連の会議に参加し、かつ、昨年10月に「核兵器の人道上的影響に関する共同声明」にも署名した。しかし、この核兵器の人道的影響を問う動きが、核兵器の使用禁止にむけた法的枠組みも求める運動に発展しつつある現在、日本国政府は、これまであいまいにしてきた立場を鮮明にせざるを得なくなっている。

この点に関して、外務省のメキシコ会議の「概要と評価」の最後に、「オーストリアが、本年後半に第3回会議を主催する旨表明し、メキシコ会議のフォローアップが行われることになった所、我が国として如何なる対応をとるべきか、検討する必要がある」と、今後の会議に不参加の可能性もあると述べている。

このように、核兵器禁止条約の動きが高まる中で、日本国政府は新たな提案を行おうとしている。日本国政府は、4月12日に広島で、「軍縮・不拡散イニチアチブ（NPTDI）」の会議を広島で開催する予定であり、それに向けての政府の基本方針である。岸田外相は、1月20日長崎で「核軍縮・不拡散政策スピーチ」と題して講演を行った。スピーチは、「核兵器のない世界をめざしていく」という前提の上で、核兵器の使用を「個別的・集団的自衛権に基づく極限の状況に限定する」ということを核保有国が宣言すべきという内容である。

これまで、日本国政府は、核抑止の立場でアメリカの「核の傘」に依存することは認めてきたが、核兵器の使用の是非については述べてこなかった。それを、今回、「極限の状態」という段階では、核兵器を使用して良いということを表明したのである。これは、1995年のハーグの国際司法裁判所の勧告的意見「核兵器による威嚇又はその使用は一般的には国際法に違反する」とした上で、「国家の存亡そのものが危険にさらされているような、自衛の極端な状況における核兵器



広島原爆ドーム



の威嚇または使用が合法であるか、違法であるかについては、最終的な結論を下すことができない」とする考え方に従ったものであろう。

しかし、ハーグの司法裁判所の勧告的意見は、「極限の状態において使用できる」としたのではなく、「判断ができない」としたものである。ヒロシマ・ナガサキの惨状と長年にわたる被爆者の苦しみを経験した日本国政府としては、いかなる状況においても、核兵器の使用を許すことはできないという立場を鮮明にすべきである。

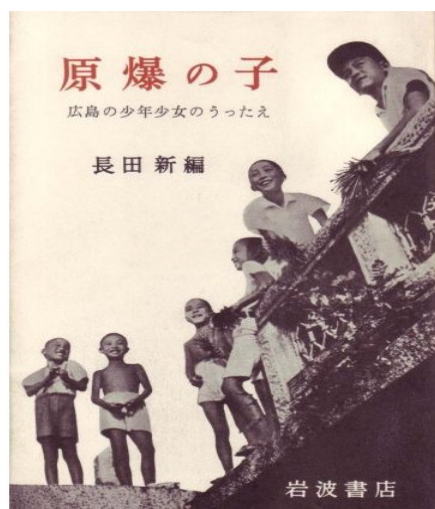
メキシコのナジャリットの議長総括は、最後に、特に日本のような国に対して、「いまこそ行動すべき時である。広島・長崎攻撃の 70 周年の節目は、我々の目標を達するための適切な道標である。ナジャリットはもはや引き返しの効かない到達点である」と述べている。

核兵器を全面的に禁止する核兵器条約の交渉を求める運動は、大きな高まりを見せている。かつては、核兵器について論議する国際的な場は、国連総会、NPT 再検討会議であったが、今日では、この「核兵器の人道的影響に関する会議」や、9 月の国連のハイレベル会議など運動が広まっている。これらの国際的な会議が相乗的な影響を及ぼしながら、核兵器の廃絶に向けた国際的な包囲網がすすむことを期待したい。それらの動きを後押しするのは、国際的な市民運動である。特に、日本においては、日本国政府が、核兵器を廃絶する上で、きちっとその役割を果たすように求めていく必要がある。

本の紹介

【世話人代表 岡本茂樹】

『原爆の子 広島の子の少女のうたったえ』（長田新編、岩波書店、昭和 26 年発行）



私が読んだのは、昭和 43 年発行の第 24 刷です。大学 2 年の夏休みに友人二人と広島原爆資料館と A B C C を訪れたことと、この「原爆の子」に出会ったことが私のその後の反核運動の原点だったように思います。あとがきによると著者は、「あの時私も被服廠の収容所で医師から死を宣告され、4 箇月余りも死地をさまよった後何の因果か命を取りとめました。」とあります。

2013 年 8 月「原爆の子」の執筆者たちが、被爆後の半生を振り返りながら書いたものを集めた『改訂版「原爆の子」その後』（原爆の子 きょう竹会編、本の泉社 1500 円）が発行されましたが、その“はじめに”を引用して本書の紹介とします。

『原爆の子』とは、昭和 26 年 10 月に、広島大学教授であった故長田新氏が、平和を願って、広島とその近郊に住んでいた少年少女達を書いた原爆体験記を集めて、岩波書店より出版されたものである。応募された手記は、1000 点をはるかに超え、・・・105 名の



手記を編集した。

被爆からわずか6年しか経過していなかった当時、手記を寄せた少年少女達の記憶は新しく、子供だったからこそ書ける率直な思いがつづられており、出版から半世紀以上経った現在も、読むものの胸を強く打ちつづける。

その手記の素直さと無邪気さと内容の凄惨さに、幾度も読み進めるのを止めざるを得なかったことを思い出します。その手記の一つでも二つでも現在の大人たちと子どもたちに届けたいと思います。40 ページにわたる著者の序は、戦争と原爆、平和憲法と教育基本法への期待と、既にその二つへ加えられる危機について述べられており、読み応えがあります。

エッセイ

【監査役 松井岩美】

安倍首相の暴走が止まらない。彼の復古願望からすれば、A 級戦犯は英雄であろう。中韓のみならず、米国からクレームがついても靖国参拝はやめられない。兵庫県保険医協会の記念講演で野中広務自民党元幹事長は、今の日本は大政翼賛会のような、現在の自民党には期待できない、みなさんには戦争に反対する議員を選んでもらいたい、と強い危機感を表明した。自民党元幹事長の古賀誠氏も同様の危機意識を新聞赤旗紙上で表明している。

大物保守政治家お二人の不戦への信念は戦争体験が原点である。戦争を知らない世代が8割を越える日本でいかにリアルに戦争を疑似体験し、学ぶか、我々にとって不可欠な獲得目標だ。

安倍内閣の「戦争をする国作り」は広い範囲にまたがるが、思うようにはなっていない。楽観はできないが戦前と戦後では時代状況が違う。自民党改憲案でも。天皇を元首化しても国民主権までは変更できない。マスコミの右傾化や大本營的発表は腹立たしいが、NHK 会長や経営委員の時代錯誤的言動は国内外の批判を浴びている。

特定秘密保護法、普天間基地の辺野古沖移転、原発再稼働、教育の官僚統制化、いずれも国民の強い反撃にあっている。新自由主義のアベノミクスも今年は矛盾がふきだし、国民のしっぺがえしを受けると思う。

我々の核廃絶運動もこういう人々との連帯によって、裾野を広げられるのではないだろうか。我々には被爆と侵略戦争体験、憲法があるのだから。



辺野古の海に基地はいらない

エッセイ

【世話人 岡本高三郎】

花粉が飛び始めて、私には点鼻・点眼薬が欠かせない季節となりました。さらに、PM2.5 が中国より飛来し、追い打ちをかけております。中国本土では、PM2.5 も地域によっては凄まじく、子ども達は外で遊んでない事態にまでなっているとの事。日本でも 3.11 以後、国の発表ですら、

広島原爆の 168.5 倍もの放射能（セシウム 137）が撒き散らされ、外で遊べない子ども達が数多く発生しました。もっとひどいのは、1960 年代に中国の新疆ウイグル自治区で行われた核実験で、チェルノブイリ原発事故の 400 万倍の放射性物質がまき散らされたとされ、少数民族のウイグル人 150 万人が被曝者になったとの事。この中国の核実験で、当時、日本にはどのくらいの放射性物質が飛来したのだろうか？風向き次第では、大変な量が飛んできたのではないかと私たちは世代は当時 10 代小学生の頃である。



チェルノブイリ原発事故

人間による自然破壊は、オゾン層破壊、CO2 多量放出による地球温暖化、河川や海・空の有害物質による汚染と原発事故による放射線汚染等々と留まることを知らない。

日本人の 3 人に 1 人ないし 2 人に 1 人は癌で亡くなると言われて久しいが、このような人間の欲による自然破壊がその背景にあるのではないかと考えるのは私一人であろうか？

今年 2 月に一周忌を迎えた亡き妻も癌で亡くなった。人間の欲による自然破壊の最悪の物が、核兵器―原爆の使用であることは論をまたない。

【第 25 回医師・医学者のつどいに寄せて】

【大脇為常】

原稿を依頼されてお引き受けしたのはいいが、さて困った。私は反核医師の会会員で会費は納入しているが反核医師の会総会には一度も出席した事のない幽霊会員である。民医連の綱領を通して「反核は医師として当たり前だから、反核医師の会に所属するのは当然」というだけで身を置いてきた。3.11 大震災・原発事故の後も大きな関わりは持てずに済ましていた。つまり本当の意味で実践が伴ってこなかったのである。内部被ばくについて少しは勉強したが、まだ自分の事とは受け止めてきていない。

だからこそ今回福岡で開催される「反核医師のつどい in 福岡」には、私を含めて圧倒的多数のチョット関心派が大きく成長する機会として期待している。判っている人たちの集まりを越えて、まだよく判っていない人達を結集できる「つどい」になることを願っている。

そこで、御苦労されている実行委員会の皆さんには申し訳ないのだが、ひとつ提案してみたい。まずは、自分の事として受け止める機会とする為に玄海原発事故を想定した臨場感のある企画を開いたらどうだろう。もう一つは現地福岡の医師・医学生に参加費を思い切って安くしたらどうだろう。（たとえば医師 1000 円、医学生タダ、とか・・・）勝手な言い分であることは御許し頂きたいが、寄付金には協力したい。

今回の「つどい」が幽霊会員を現世に引き戻すだけでなく、新たに関心を持つ人たちに反核医師の会への参加を促す格好の場にできればと思う。

2014 年「第 25 回全国反核医師のつどい in 福岡」の進捗状況について

「第 25 回 全国反核医師のつどい in 福岡（11/1~2）」の開催まで 8 か月を切りました。実行委員会は、先日第 7 回目を開催し大枠が決まりつつあります。メインテーマは方言を取り入れて、『核はいっちゃん好かん！！ ～作るばい安全な未来、核のなか世界～』に決まりました。会場は「都久志会館（福岡市中央区天神）」をおさえてあります。

記念講演や学習講演の講師についても、只今講演依頼を行っているところです。より多くの方にご参加いただき、「平和 核廃絶 原発問題」等に関心を持って頂けるよう、実行委員一同腐心しているところです。「参加目標 500 人」は欲ばり過ぎかもしれませんが、充実した中身で「つどい in 福岡」に参加して良かったと言われるよう、大いに欲張っていきたいと思っております。

そこで、現地福岡の会員の皆さまへのお願いです。①実行委員を引き受けて頂ける方を募集しております。②「第 25 回 全国反核医師のつどい in 福岡」へのご意見ご要望等ありましたらお寄せください。お知恵も拝借したいです。③お知り合いの先生や患者さんなどへもご案内をお願いします。会員の皆さまは是非ご出席ください。④先立つものは、お金です。名刺広告やカンパにご協力をお願いします。

よろしくお願い申し上げます。（※案内のチラシや広告等につきましては、今しばらくお待ちください）

世話人の紹介

※お 2 人ご紹介します。



【久田裕史 世話人】

（住居）：北九州市（医療機関名）：戸畑けんわ病院（北九州市）（専門科目）：内科（消化器）

（会に入会したきっかけや活動の抱負について）：被爆二世です。核兵器は医療と最も対極にある代物だと思います。

（その他）：原発再稼働は絶対反対！ 原発の輸出なんてとんでもない！

【角銅しおり 世話人】

（住居）：福岡県粕屋郡（医療機関名）：千鳥橋病院（福岡市）（専門科目）：内科・呼吸器内科

（会に入会したきっかけや活動の抱負について）：研修医時代（東京民医連）に、反核医師の会でフィリピンの医学生達を招いて、フィリピンでのアメリカ基地撤去後、残存する核廃棄物の調査など反核運動のパネルディスカッションの司会を依頼されたことから反核医師の会との関わりが始まりました。医師として、人の命を脅かす核兵器・原発の存在は、人との共存はあり得ないという想いで、反核運動に加わっています。



（その他）なかなか日常診療に埋没し、反核医師の会の活動に参加できずすみません。原発避難者の健診を行っていますが、その方達と長崎・広島の実地者達との連帯ができないかと思っています。

【編集後記】

「3.11」から3年。安倍第2次政権になって1年余り。安倍さんは、被災地のために何かやりましたっけ？・・・何一つ思い浮かびません。本稿でも「ファシストや暴走」という言葉で説明されていますが、同感です。身の回りの要人を「お友達」で固め、「国民の声に耳を傾ける（らしい）」という器用さです。原発を「再稼働」させるどころか、輸出にも熱心で、「ベースロード」という耳慣れない言葉もお好きなようです。憲法改正も「解釈憲法」で乗り切ろうかという荒業の持ち主だったので、言葉を失います。

3年目の「3.11」。福島原発事故で故郷を奪われた皆さんは、どんな心持でしょうか。やり場のない怒りでいっぱいでしょう。昨年11月の「さよなら原発 11.10九州沖縄集会」では、避難された方から「福島は国から棄てられた。棄民政策だ」という訴えがありました。これは、広島長崎で被爆された方にも通じるものがあるでしょう。この思いを何とかしなければ！と思います。

（事務局S）

事務局から5つのお願い

1. 入会のお願い

核戦争防止・核兵器廃絶を求める福岡県医師・歯科医師の会の役割は益々重要になっています。

「入会のしおり」をご活用いただき大いに呼びかけをお願いします。

2. 会費納入のお願い

会の運営、活動を継続・発展させるためには会費の納入が大きな力になります。厳しい情勢ですが、毎年の会費納入をよろしくお願いします。

3. 署名のお願い

核兵器を廃絶する署名は国連にも積み上げられ大きな力になっています。患者さんや地域の皆さんからの一筆一筆が核兵器を廃絶する確かな取り組みです。

4. キャンパのお願い

核戦争防止・核兵器廃絶を求める福岡県医師・歯科医師の会の運動への理解を多くの人に広げるとともに会を支えていただくカンパを呼び掛けていきましょう。

5. ニュースレターへの投稿のお願い

反核医師の会の機関紙「ニュースレター」の役割は重要です。会員の皆さんや多くの方からの投稿で内容をさらに充実します。投稿をお願いいたします。

投稿は Fax : 092 - 483 - 0435 へ“ニュースレター用”としてお送りください。